

「ハートツリー賛助会」入会・寄附のお願い

特定非営利活動法人ハートツリーでは様々な困難や「生きづらさ」を抱えた、子ども・若者への支援活動を行っており、当法人の取り組みにご理解いただき、ご賛同・ご協力を頂ける「賛助会員」様と、「寄附」という形で活動をご支援くださる方を募集しています。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

「ハートツリー賛助会」年会費

賛助会員 年会費(入会金は無料です。)個人 1口 3,000円 団体 1口 5,000円

寄附金 1口 3,000円～

年会費・寄附の送金方法

1. 振込み用紙を利用する

郵便局の払込取扱票(特定非営利活動法人ハートツリーと印字のもの)に「賛助会費」または「寄附」と明記していただき、お名前、ご住所、電話番号を記入の上、お近くの郵便局にて、送金をお願い致します。※後日、寄附金受領証明書を送らせていただきます。(税制優遇を受けるための証明になります。)

2. ゆうちょに振り込む

ゆうちょ銀行 口座記号番号 00950-7-201839

名義 特定非営利活動法人 ハートツリー

郵便局の「払込取扱票」に、「賛助会費」または「寄附」と明記していただき、お名前、ご住所、電話番号を記入の上、お近くの郵便局にて、上記口座宛送金をお願い致します。

※後日、寄附金受領証明書を送らせていただきます。(税制優遇を受けるための証明になります。)

3. クレジットカードで送金

ハートツリーホームページの「入会・寄附」のページからクレジットカード決済のボタンをクリックすると、お手続きページ(CANPAN 決済サービス)に進みます。

NPO 法人ハートツリー

検索



認定(仮認定) NPO法人への寄附者に対する税制上のメリット

- *個人が寄附をした場合 国税と地方税あわせて、寄附金額の最大50%が税額から控除されます。
- *法人が寄附をした場合 一般寄附金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられており、法人は、その範囲内で損金算入が認められます。

年会費・寄附金の送金方法の詳細は、ハートツリー HP または、リーフレットをご覧ください。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年は法人設立10周年を迎え、ハートツリーにとって大きな節目の年となりました。10年というと、壺井栄の「二十四の瞳」の冒頭に「十年をひと昔というならば、この物語の発端は今からふた昔半もまえのことになる」とあります。法人設立はひと昔前になりました。時は過ぎ去っていくもの。これから新たな10年が始まると思うと、ひとこごちつて暇はありません。今年も全力で努めたいと思います。

(地本裕子)



Heart & Heart

2017年1月 Vol.4

発行：特定非営利活動法人ハートツリー

発行者：松下泰子

住所：和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号

TEL：0739-25-8308

FAX：0739-34-2066

E-mail：info@heart-tree.org

HP：http://heart-tree.org



2017
Jan.
Vol.4

Heart & Heart

特定非営利活動法人 ハートツリー
http://heart-tree.org



新年明けましておめでとうございます

理事長 松下泰子

昨年11月5日、法人設立10周年記念事業を無事終えることができました。当日は、遠方からも多くの方々にお越しいただき、式典の他、当法人の活動をパワーポイントで紹介させていただきました。

また、日本福祉大学名誉教授の竹中哲夫先生に「ひきこもり支援の方法」と題して、支援者と家族の協力関係の大切さをご講演いただきました。記念誌も作成いたしましたので、是非ご一読いただきたいと思います。



この間、本当に多くの方々にご支援、ご協力いただきましたことを改めまして心より感謝申し上げます。振り返りますと、酒井前理事長が生きづらさを抱えた若者たちの居場所づくりを始めてから、彼ら彼女らのニーズも広がり、そのニーズに応えるためにひたすら走り続けてきたような気がします。

そして、ここを巣立って行った若者たちが、社会で一所懸命働いている姿を見ることが何よりの喜びです。また、10数年ひきこもっていた青年が、家から出て工房で働いたり、南紀高校へ通い始めたりしている姿には、感動さえ覚えます。

まだまだこの地域には、ひきこもっていたり生きづらさを抱えたまま悶々とした日々を過ごしている若者が多く存在しています。何とか支援の手が届くように地域の方々にもご協力をいただけたらと存じます。

同様に、今年度から始まった、生活困窮家庭の子どもたちに対する「無料塾」や「子ども食堂」も、まだまだ必要な家庭に知られていない状況です。

当法人と繋がっていただけることが初めの一步と考えますので、重ねて皆様方のご協力をお願いしたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



竹中哲夫先生 記念講演